

今後の主な講習会日程(平成22年度分)

発行日 平成22年5月28日

I. 安全教育講習

(1) ガス溶接技能講習

平成22年 6/8(火)～9(水)、6/23(水)～24(木)、7/5(月)～6(火)、7/20(火)～21(水)、8/2(月)～3(火)、8/17(火)～18(水)、8/31(火)～9/1(水)、9/21(火)～22(水)、10/5(火)～6(水)、10/27(水)～28(木)、11/9(火)～10(水)、11/24(水)～25(木)、12/9(木)～10(金)、12/20(月)～21(火)、平成23年 1/11(火)～12(水)、1/26(水)～27(木)、2/8(火)～9(水)、2/21(月)～22(火)、3/9(水)～10(木)、3/23(水)～24(木)

(2) アーク溶接特別教育講習

平成22年 6/28(月)～30(水)、7/12(月)～14(水)、8/25(水)～27(金)、9/28(火)～30(木)、10/20(水)～22(金)、11/17(水)～19(金)、12/6(月)～8(水)、平成23年 1/19(水)～21(金)、2/23(水)～25(金)、3/16(水)～18(金)

II. 各種技術講習

(1) 非破壊試験 入門・基礎講習

UT入門		平成22年 7/28～7/30頃
浸透探傷試験 基礎	レベル1(PT,PD,PW) レベル2(PT,PD)	平成22年 7/22～7/23頃 平成22年 7/28～7/30頃
磁粉探傷試験 基礎	レベル1(MT,MY,MC,ME) レベル2(MT,MY)	平成22年 7/08～7/09頃 平成22年 7/12～7/14頃

(2) 非破壊試験 学科試験対策講習

超音波探傷試験	レベル1(UT) レベル2(UT)	平成22年 8/23～8/24頃 平成22年 8/30～9/1頃
浸透探傷試験	レベル1(PT,PD,PW) レベル2(PT,PD)	平成22年 8/24頃 平成22年 8/26～8/27頃
磁粉探傷試験	レベル1(MT,MY,MC,ME) レベル2(MT,MY)	平成22年 8/19～8/20頃 平成22年 8/30～8/31頃
放射線透過試験	レベル1(RT) レベル2(RT)	平成22年 8/19～8/20頃 平成22年 8/23～8/24頃
材料試験	レベル3共通	平成22年 未定

(3) 溶接管理技術者認証取得教育

	WES1級	WES2級
認定研修会	平成22年 9/14(火)～9/17(金)	平成22年 9/14(火)～9/16(木)
直前対策演習	平成22年 10/23(土)～10/24(日)	平成22年 10/16(土)～10/17(日)

(4) 抵抗溶接実務教育講習 平成22年 6/5(土)～6/6(日)、10/2(土)～10/3(日)、平成23年 2/19(土)～2/20(日)

III. 溶接技能訓練講習

ステンレス鋼溶接(被覆、ティグ、シグ)	6/2(水)～6/3(木)、7/7(水)～7/8(木)、8/4(水)～8/5(木)、9/1(水)～9/2(木)
アルミ合金溶接(ティグ、シグ)	6/16(水)～6/17(木)、8/18(水)～8/19(木)、9/15(水)～9/16(木)、10/13(水)～10/14(木)
半自動アーク溶接(炭酸ガス)	6/1(火)～6/3(木)、8/3(火)～8/5(木)、10/5(火)～10/7(木)
銀ろう付け溶接	7/8(木)、11/4(木)

IV. 検定日予定日

鋼溶接検定日	平成22年 6/4(金)、7/9(金)、7/16(金)、8/6(金)、9/3(金)、10/8(金)、11/5(金)、11/12(金)、12/2(金)、平成23年 1/14(金)、2/4(金)、3/4(金)
アルミ溶接検定日	平成22年 6/18(金)、8/20(金)、9/17(金)、10/15(金)、12/17(金)、平成23年 2/18(金)

発行所 財団法人 日本溶接技術センター 事務部門
〒210-0001 川崎市川崎区本町2-11-19
Tel 044-222-4102 Fax 044-233-7976
ホームページ パソコン <http://www.jwsc.or.jp/>
携帯 <http://m.jwsc.or.jp/>

日溶セがいで

第19号

第19号の主な内容

1、2010年 国際ウエルディングショーへの出展

財団法人 日本溶接技術センター
専務理事 奥村 誠

2、当センター 理事会・評議員会 報告

事務部門長 一杉則夫



理事会・評議員



ウエルディングショー
当校学生による溶接実演



ウエルディングショー
溶接実演で表彰された当校学生たち

当センター 理事会・評議員会 報告

財団法人 日本溶接技術センター
事務部門長 一杉則夫

2010年 国際ウエルディングショーへの出展

財団法人 日本溶接技術センター
専務理事 奥村 誠

当センターの平成22年度理事会・評議員会が5月13日(木)午前11時より5階大講堂で開催されました。

会議では、経済産業省製造産業局産業機械課 課長補佐 是永基樹様、鈴木慎一郎様に本年度もご出席いただきました。ありがとうございます。

会議の出席者は次の通りです。
現理事4名(榎本、計良、入江、奥村)、現新監事3名(青柳、尾上、池上)、現評議員15名(菅、吉武、村上(秀)代理岩井)、石井(代理豊田)、高須賀(代理古藤)、猪股、吉野、相澤、石塚、井上(代理鈴木)、中村、村上(武)、谷垣、清水(潤)、清水(克)、顧問2名(重見、江川)、参与4名(伊藤、福田、山口、徳岡)(敬称略、順序不同)

会議に先立ち、経済産業省 是永様にご挨拶をいただきました。

『現在の産業界の景況は、一昨年以来の金融不況の影響を受けて相変わらず厳しい状況ではあるが、機械設備機器関連の製造分野で、一頃、業績が50%以下に落ち込んでいたのが80%程度に回復してきており、また、工業指数も回復傾向にあることが報じられており、僅かではあるが明るい兆しも見えてきている。

経済産業省としては、今後の成長戦略として、いわゆるグリーンイノベーションを掲げ、次世代自動車産業の展開をはじめ、インフラ関連など力を入れていく所存であり、そのためにはものづくり基盤技術の充実が不可欠である。財団法人日本溶接技術センターは、ものづくりの基盤となる要素技術の一つである溶接や検査技術に関し、日ごろからその普及活動や人材育成に貢献して頂いており、今後とも幅広く活動していただくことを期待しているので宜しくお願いする。』

溶接等の教育に関わる私どもにとって、大変励ましとなるご挨拶をいただきました。

続いて、会議に入りましたが、理事会の議長に入江会長、評議員会の議長に菅氏が選任されました。議事は円滑に進行し、決算報告など5つの議案が承認されました。



青柳監事

承認された事業報告などのポイントは次の通りです。

(1)平成21年度事業報告、決算報告

景気後退の影響が危惧されましたが、収入・収支差額とも、予算を超える成果となりました。これは、関係諸団体のご支援・ご協力と当センター職員の精励及び費用削減によるものと判断しています。得られた収支差額は将来の設備投資資金積立、施設改修、教育機器等の投資に当てることができました。

(2)平成22年度事業計画、収支予算

既存事業の安定成長と新規事業の推進という基本的事業計画としました。しかし、景気回復の兆しがまだ見えないことと当センターの事業収入サイクルが停滞期に入るため、平成21年度予算をやや下回った予算とさせていただきます。なお、人、物、金についての長期的課題にも取り組むこととしました。

詳細につきましては、平成21年度事業報告書・平成22年度事業計画書をご覧いただきたくお願い申し上げます。



是永様 ご挨拶



菅議長

4月21日(水)～24日(土)、東京ビックサイトにおいて2010年 国際ウエルディングショーが開催されました。

この展示会は、隔年毎に東京と大阪で交互に開催される日本の溶接業界における最大の国際的な専門トレードショーで、今回は4年ぶりの東京開催でした。

各社から新規開発の先端的製品・技術が多数登場すると共に、主催者側からの新味あふれる企画も随所に見られ、4日間を通じて9万人を超える来場者が記録される活気に満ちたものでありました。

(財)日本溶接技術センターは、主催者側((社)日本溶接協会および産報出版(株))の厚意により、以前から永年にわたって展示ブースの提供を受けてきており、今回も協会と隣り合わせで、当センター事業活動内容に関する広報活動を展開することができました。

過去の展示では、当センター付属の日本溶接構造専門学校を紹介を中心に、溶接および非破壊の各種講習会案内や教育用試験体の展示販売とそのPRを行ってきました。

今回はそうした基本的な広報路線を継続すると共に、新たな視点としてAWS-CWI(溶接検査委員資格取得)事業と出張派遣検査事業の2事業について重点的な広報を実施しました。

前者は、アジア内需の言葉で浮かび上がる日本の若い技術者の活動領域の拡がりに向け、当センターからの支援を表明するものであり、後者については、当センターの中立的第三者検査機能を発揮し新事業展開を行う旨を新たに表明したものです。



当センター ブース

従前と比較すると、4日間を通じ、実質的な来訪者が多く集まり、専門学校への関心も含め、溶接・非破壊検査に関する教育や試験検査業務についての技術相談など、今後の事業展開が楽しみな出会いも多くありました。

また、今回は、『技能プラザ』と名打った主催者側の技能伝承意義の発信に関する企画がありました。

当センターは、これに協力する立場から、付属の「日本溶接構造専門学校」を代表する学生諸氏4名(設備・構造安全工学科2年、藤森崇史、金珍淑、鉄骨生産工学科2年、伊藤健一郎、森紳一郎)と指導教員(島田芳秋)による溶接技能実習(半自動および手溶接)の模擬授業実演を、21日、22日の両日にわたって、当センター展示ブースの前面で実施しました。

多くの入場者が足を止め熱心に見守る中で、学生諸氏も日頃の成果を遺憾なく発揮し、当専門学校の一面を紹介するのに大いなる貢献を果たしてくれました。

なお、当専門学校では、授業の一環として、1年生、2年生全員を半日ずつ会場に引率し、この国際ウエルディングショーの見学会を実施しました。広い会場の全てを知り尽くすとはいかなくてもその一端に触れたことは、彼らにとりて今後の勉学の意識付けに有効であったと思います。



ブース前の当校学生たち